

成果報告書

地域部活動推進事業

担当部署	掛川市教育委員会 教育政策課		
所在地	静岡県掛川市	運営形態	地域移行 ・地域文化芸術団体等運営型
運営主体	公益財団法人掛川市文化財団		
課題	<p>掛川市の部活動には以下の3つの課題がある。</p> <p>第1に、専門的な指導についてである。令和3年度、市内の部活動の45%は競技経験のない顧問が配置されており、半数近くの生徒が専門的な指導を受けられない状況にある。文化部活動についても、同様であり、市内パソコン部や美術部の多くは専門外の教員が指導に携わっている。令和3年5月に実施した保護者アンケートでは、9割以上の保護者が部活動を地域のクラブや指導者が担うことに賛同しており、その8割以上が専門的な指導を受けられることを理由に挙げている。生涯にわたって文化活動に親しむためのスタート地点として、その活動のおもしろさ、奥深さに気付かせることのできる指導者が望ましい。</p> <p>第2に、ニーズの多様化である。令和3年5月に実施した小学生アンケートでは、小学校4年生から6年生の4人に1人が学区の中学校に入りたい部活動の種目がないと回答している。特に、文化部活動は学校によっては1種目しか設置されておらず、吹奏楽部しか設置されていない学校の吹奏楽部員にアンケートをとったところ、3割の生徒が入部した理由に他に文化部がなかったことを挙げている。このことから、ニーズに対応できるクラブの新規設置や複数校から参加できる活動の仕組みが必要である。</p> <p>第3に、教員の時間外勤務時間の長さである。令和3年6月の部活動顧問の時間外勤務時間の平均は110時間であった。また、全顧問の8割以上が過労死ラインである80時間を超えていた。文化部、特に吹奏楽部については、休日の活動時間も運動部並みに長く、時間外勤務時間の多くを部活動指導が占めている。掛川市部活動ガイドラインの策定により、教員の部活動従事時間は減少傾向にあるが、1人1台端末も整備され、授業研究にける時間が増大する中、勤務時間外の放課後や休日に部活動指導に従事する現在の状況では、教員の健康状態が心配される。休日はもちろんのこと、平日も含めた部活動の管理体制の見直しが必要である。</p>		
事業目標	<p>掛川市では、「中学校区学園化構想」による園・学校と地域の教育力向上や「かけがわ教育の日」による市民とともに考える教育の振興など、市民総ぐるみの教育に取り組んでいる。部活動についても、従来のように学校だけが担うのではなく、家庭や地域、企業等との連携・協働による支援を行い、乳幼児期から社会人、高齢者に至るライフステージに応じて、スポーツや文化に親しむことのできる体制を整えることで、子どもや市民が夢とこころざしをもち、ともに学び、豊かな未来を創造することができる持続可能な新たな教育環境につながると考える。そこで、令和9年までには休日だけでなく平日も含め、部活動を地域クラブとして地域団体が運営する体制とすること(部活動の地域展開)を目標に掲げ、関係団体との協議や新たな制度設計の検討を進める。</p> <p>また、公益財団法人掛川市文化財団にモデルとなるプログラミングのクラブ設立、運営業務を委託し、地域団体による運営の課題を明らかにする。</p>		

<p>団体・組織等の連携</p>	
<p>拠点校等</p>	<p>市内全中学校</p>
<p>活動場所</p>	<p>掛川市生涯学習センター</p>
<p>活動概要</p>	<p>【定量的観点】 6月、10月、1月に部活動地域展開検討委員会を3回開催した(明治大学林幸克委員長をはじめ、全8人の検討委員で構成)。5~7月に掛川デジタルクラブ設立に向けた運営会議を5回開催した。その内、3回は静岡理工科大学で開催し、メンター指導者となる学生サークル及びその学生の指導教員と打ち合わせた。8~10月の期間で週1回、地域でプログラミングの活動を実施した。市内16人の中学生が参加した(途中退会あり)。※1回2時間(準備片付け含む)×8回=16時間 指導者については、チーフ指導者1人とメンター指導者となる静岡理工科大学の学生サークル(会員数16人)を確保した。クラブを運営する事務局として、掛川市文化財団が1人以上のスタッフを配置した。</p> <p>【定性的観点】 部活動地域展開検討委員会は、明治大学教授の林氏を委員長に、市内の学校長や関係団体、地域指導者など8人で構成した。1月末までに3回の検討委員会を開催し、今後の部活動の地域移行を推進するための計画について協議した。委員会では、「子どもがチャレンジしたいことにチャレンジできる環境づくり」「持続可能な環境づくり」などの方針が話し合わせ、学校が運営する形態を市スポーツ協会や市文化財団などの地域団体が運営する形態に移行する「かけがわ地域クラブ(仮称)構想」を描いた。本構想では、学校教育の一環として実施していた部活動から、生涯学習の一環として実施する地域の文化・スポーツ活動へと、その位置づけを変えることを掲げている。</p> <p>掛川デジタルクラブには参加している17人の生徒のうち、11人(西、栄川、東)は学校にパソコン部がない生徒である。参加した生徒は「プログラミングを一緒に学ぶ仲間ができてよかった」「おもしろいゲームをつくりたい」と話した。</p> <p>チーフ指導者の福田氏は全体指導を担うマネージャーとして、メンター指導者の大学生サークルはプログラミングの技術指導を担うサポーターとして子どもたちに関わっている。また、本活動のカリキュラムは、大学生サークルが企画・開発している。第1回、第2回の活動では、プログラムで動作するミニカーを用意し、自動ブレーキやライトレースなどの機能を実装するためのプログラミング活動を展開した。また、第3回から第6回では、プログラミング言語のPythonを指導し、言語の理解や論理的思考の育成を図った。第7回、第8回の活動では、子どもたちにPythonを利用して自由に作品を創作させ、発表する機会を設けた。</p>

○本事業による成果

【地域移行全体について】

①文化系部活動の地域団体による運営体制の確立

スポーツ系活動においても、文化系活動においても、地域クラブを運営する際には、指導業務と管理業務という2つの業務が必要となる。指導業務については、参加生徒への技術指導や活動のコーディネート等、管理業務については、会員募集や会員管理、会費管理、会場調整等が挙げられる。地域指導者の中には、指導はできるがクラブ(部活動)の運営までは担うことができないと考える指導者は多くなく、現在、本市で任用中の部活動指導員(11人)についても、単独による指導引率は実現できていても、顧問が管理業務を引き受けている事例がすべてである。

今回、そのような実態を踏まえ、指導と管理を分業制にするための体制を構築した。掛川デジタルクラブの会員募集や入退会手続き、会場予約などの管理業務は掛川市文化財団のスタッフが担い、指導者は当日会場に赴き指導に専念するという体制である。このスキームは、他のジャンルの活動にも転用しやすく、掛川市文化財団は令和5年度4月の美術クラブ創設を実現させている。指導者と会場さえ確保できれば、子どものニーズの応じてクラブを創設できる仕組みであるため、今後も学校部活動の受け皿づくりを計画的に進めることができる。令和5年度には、各ジャンルの活動における検討部会を立ち上げ、多種多様な文化系地域クラブの創設計画を考案する予定である。

②文化系活動の指導者ネットワーク構築

各種目に競技協会や連盟等の組織をもつスポーツとは異なり、美術やパソコン等の文化系部活動については、同様の組織が存在しない。そのため、指導者の確保や育成、受け皿となるクラブ設立等において、協議をする機会が生まれにくい。今回、掛川市文化財団が掛川デジタルクラブを創設する際、地域の指導者や大学生などを交えた指導者の協議の場が設定された。このことにより、掛川デジタルクラブの活動内容の見直しだけでなく、拠点の増設や指導者確保の検討など、地域におけるデジタル系活動の在り方を議論することができた。また、指導者の縁故で別の指導者が見つかるなど、ネットワークの拡大はさらに進んでいる。令和5年度、掛川デジタルクラブの第2拠点の創設が決定しており、今後の更なる展開が期待される。

③受益者負担による運営

今回の実践研究では、掛川デジタルクラブの活動を10月末まで実施することを掛川市文化財団に再委託していたが、11月以降も掛川市文化財団は受益者負担の考え方により会費を確保した上で継続実施した。掛川市文化財団スタッフのクラブ管理業務に係る人件費や会場費、指導者謝金などを会費によって賄うことで、将来的に自主事業として位置付けることができるようになる。スポーツにおいては、本市には総合型地域スポーツクラブがあり、子どもを含めた多くの市民が多種目、多志向、多世代の活動に親しんでいる。文化系活動についても同様に、この部活動改革をきっかけに、地域で活動できる様々な文化系クラブが創設されることが期待される。

【パソコン部の地域移行及び教員の働き方改革について】

今回の取組は、既存の部活動の指導を地域へ委ねる形態ではなく、地域に部活動の代わりとなる新たな活動環境を整備する形態で実施しているため、パソコン部活動顧問の働き方改革に直接影響を及ぼすものではない(掛川デジタルクラブへの参加は任意)。しかし、掛川デジタルクラブに参加している北中学校のパソコン部の生徒が、ヒアリングにおいて「学校の部活動ではここまで専門的な活動ができる仲間がいない」と話すように、学校の部活動ではカバーしきれないニーズに応えることができることで、技術習得や仲間づくりの点で、生徒にとっての充足度は向上していると言える。このようなニーズに対応できる地域クラブが創設されることで、学校部活動への要望は減少することが予想されるため、顧問にプログラミング等の経験がない場合の負担は大きく軽減できると考えられる。なお、事後アンケートにおいて、生徒の満足度に関する肯定的な回答は100%(回答者13人全員)であり、高校生になっても続けたいと回答した生徒は約8割(回答者13人のうち10人)であった。また、保護者の満足度は100%(回答者11人全員)、高校での継続希望も100%(回答者11人全員)である。

○児童・生徒への指導に関する工夫

①参加生徒のニーズや実態に応じた活動

今回の掛川デジタルクラブは、本年度創設されたクラブであるため、参加生徒の意向や習熟度などのニーズや実態に応じた活動に軌道修正しながら展開した。チーフ指導者の福田氏は、活動期間中に参加生徒と面談を行い、生徒のニーズを把握した。メンターの大学生らは、各活動後に指導を振り返り、生徒の実態と指導の方向性を協議し、次の活動の改善につなげた。

スポーツと異なり、指導者の指導力向上のための研修機会は設けられていないため、このような指導者自身による研鑽に頼る他ない状況ではあることは課題である。今後、指導者のネットワークが拡大した際には、指導力向上のための情報交換や研修などの機会を設けることも検討したい。

②静岡理工科大学によるパソコンの貸与

学校会場とは異なり、今回使用した会場にパソコン端末はない。そのため、静岡理工大学の協力により、端末を確保できない生徒については、大学所有の端末を期間限定で貸し出した。現在はほぼすべての会員が各家庭の端末を持ち込んでいるが、今後は掛川市文化財団が貸し出し用の端末を所有するなど、どの生徒も参加しやすい環境を構築する必要がある。

○運営上の工夫

①クラブ管理と指導の分業体制

上述のとおり、掛川市文化財団が管理業務、地域指導者及び大学生が指導業務を担ったことで、指導者の負担を軽減した運営が実現できた。また、掛川市文化財団のスタッフがコーディネーターとしての役割も果たし、掛川デジタルクラブの継続や新規クラブの企画立案など、文化部活動の地域移行を推進した。

②持続可能な活動回数

学校の文化部活動は平日のみでも週3回、休日も実施すると週4回を超える。しかし、フルタイムで働く地域指導者が週3～4日も指導に従事することは現実的ではない。また、回数を増やせば、人件費や会場費、指導者の謝金等も比例して高額になるため、それに伴い会費も高額になってしまう。実践研究終了後も継続して実施できるようにするため、掛川デジタルクラブは週1回、1回2時間程度(準備片付け含む)の活動とした。

③効果的な募集活動

掛川市教育委員会は令和4年度より、地域クラブの公認制度をスタートさせ、広報活動や学校施設使用等で支援をしている。掛川デジタルクラブについても、掛川市教育委員会の公認地域クラブとして認定することで、募集案内を保護者メールで送付したり、掛川市のホームページにクラブのホームページのリンクを貼ったりと、効果的な募集活動を展開できた。

○継続的な運営に関する課題

①人に関する課題

今回のかけがわデジタルクラブでは、ICT支援員の経験のある地域指導者の福田氏や静岡理工科大学の学生の参画を得られたが、今後、5年後、10年後を見据えた際に、次の担い手の確保及び育成が重要である。学校部活動は、経験の有無に関わらず、顧問教員が配置されるため、活動の継続性は担保されている。しかし、地域クラブについては、指導者が退かなければならない場合、その代わりとなる指導者を見つけなければならない。上述のとおり、パソコン関連の協会や連盟等の団体はない。そのため、指導者は一般公募となることが考えられるが、長期的な視点では指導者の確保だけでなく、育成する仕組みが必要である。スポーツ同様に指導者のネットワークが必要である。

②もの、場所に関する課題

パソコンに限らず、美術や吹奏楽等においても、用具の確保が必要である。受益者負担の考え方のもと、必要経費については会費として各家庭に負担をお願いしているところであるが、楽器や画材などを新調したり、大きな修理を実施する場合は大きな費用負担が必要になる場合がある。なお、本市では、学校配当予算の中で備品登録されている楽器を修理しているが、令和3年度の楽器修理にかかった費用は年間60万円を超える。

経済的困窮家庭に限らず、会費負担を理由に文化的活動に取り組むことができない子どもが生まれてしまう恐れがあることは大きな課題である。学校の施設内にある用具や楽器等を地域クラブが使用できるようにすることや、新規購入やメンテナンスに係る費用等への支援の在り方について検討する必要がある。

また、今回の掛川デジタルクラブは、市のセンター利用したが、この会場にはフリーWi-Fiが整備されていない。安定した速度のある通信環境を整備するため、今回は2台のモバイルルーターのレンタルサービスを使用した。月会費に数百円を上乗せしなければならない。クラブ活動会場となりうる公共施設等のフリーWi-Fiの整備が必要である。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

掛川市が描く地域移行後の文化系クラブ活動の運営体制は大きく分けて次の2つであると考えている。

- ・掛川市文化財団が管理するクラブ
- ・その他の地域団体(NPOや市民団体など)が管理するクラブ

これらを総称して、「かけがわ地域クラブ(仮称)」とし、令和8年度にすべての文化部活動をこれらのような地域団体管理による運営体制に移行する計画「部活動地域展開推進計画」を令和5年度中に策定予定である。

市内の文化部活動は、大きく分けて吹奏楽部、パソコン部、美術部、総合的な文化部の4種類しかなく、半数以上の中学校で1種類ないし2種類しか設置されていない。生徒が自分のやりたいことにチャレンジできる活動環境を構築するため、既存の部活動種目の地域移行に留まらず、多様な文化系活動を展開する方針である。すでに、市内には、掛川市文化財団が運営するプログラミング活動の「掛川デジタルクラブ」、NPO法人が運営する総合的な文化系活動の「未来創造部Palette」、NPO法人が運営する弦楽や合唱、吹奏楽などの音楽活動の「掛川文化クラブ」が活動している。また、将棋や調理などのクラブ創設案も生まれるなど、多種多様なジャンルの活動が広がり始めている。

また、この推進計画では、中学生のみを対象とせず、多世代が集う活動も推進している。すでに、掛川文化クラブは小学生から中学生までが共に活動しており、多世代参加のクラブとして定着している。来年度、掛川市文化財団が創設予定の「掛川美術クラブ」「掛川デジタルクラブ第二拠点」も小学5、6年生が参加できるクラブとなる予定である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	17人(途中退会あり)
	募集方法	掛川市文化財団が募集案内を作成、掛川市教育委員会が保護者へメール送付
指導者	人数等	チーフ指導者 1人 大学生団体 1団体(16人の学生組織)
	募集方法	掛川市教育委員会が市内学校ボランティアにチーフ指導者を打診 大学生団体は掛川市SDGsプラットフォームより紹介
参加者の移動手段		自転車、徒歩、送迎
活動費用	指導者謝金等	諸謝金 チーフ指導者 1時間1,600円 大学生団体 1回6,000円
	その他	会場使用料 第3会議室1,840円 第4会議室3,850円 モバイルルータ2台 4か月 29,828円 保険料 7,200円
活動財源	会費	800円 ※保険料や消耗品等
	その他	本実践研究委託料により、会費は800円のみ ※委託完了後は掛川市文化財団の事業として継続 月会費4,000円
スケジュール	基本活動	火曜日 午後7時から午後8時30分まで
	年間	5月～7月 掛川デジタルクラブ運営会議(準備) 5回開催 6月10日 第1回部活動地域展開検討委員会開催 7月30日 掛川デジタルクラブ説明会開催 8月～10月 掛川デジタルクラブ活動全8回開催 ※11月以降は別事業として継続実施 10月 掛川デジタルクラブ運営会議(打合せ) 1回開催 10月14日 第2回部活動地域展開検討委員会開催 1月20日 第2回部活動地域展開検討委員会開催
保険加入等		有 傷害保険 7,200円(全9回活動分)

【活動の様子（写真添付）】

